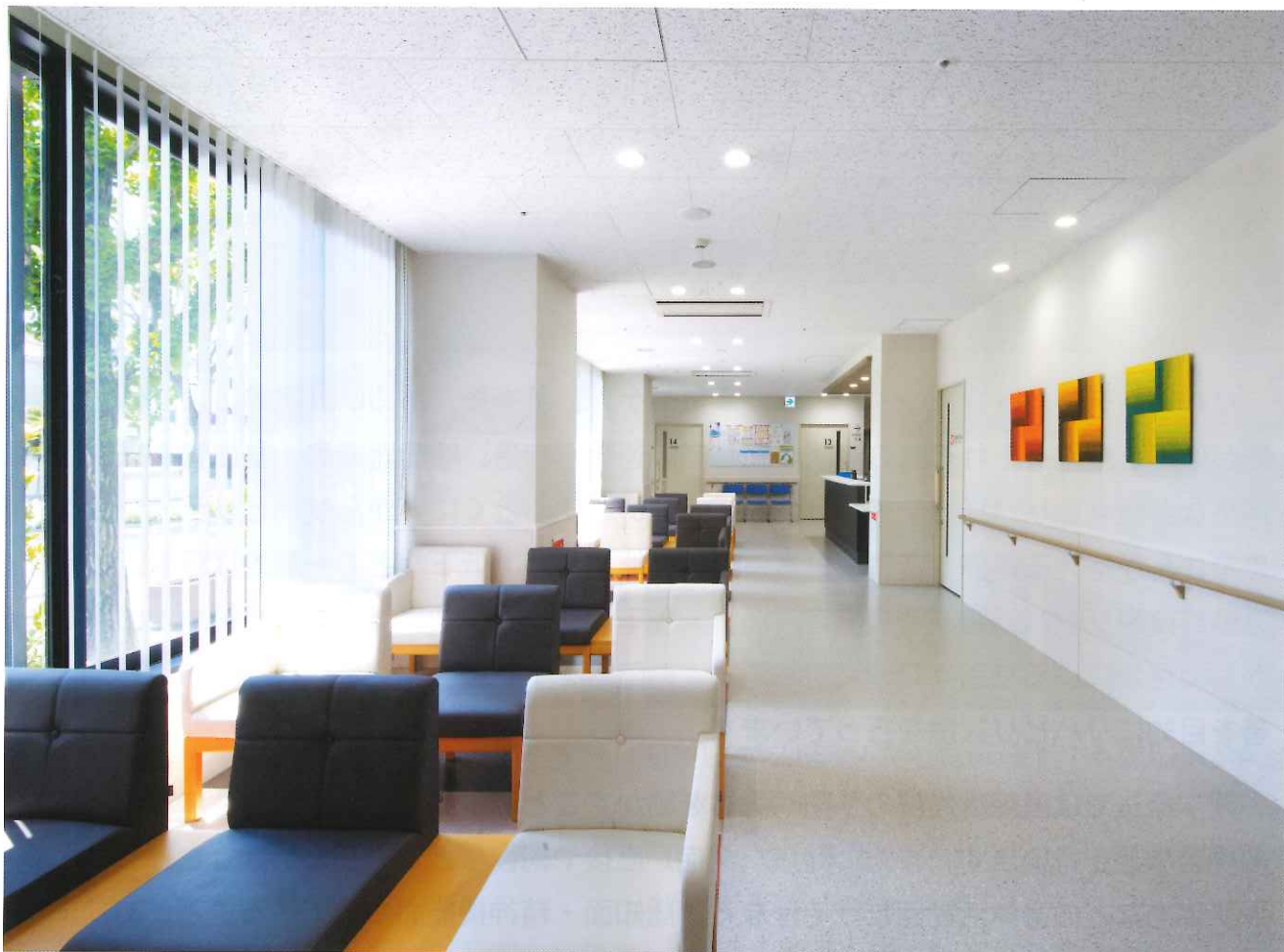


ほとめき

2016年
第10号

「ほとめき」とは筑後の方言で「おもてなし」という意味です。
書：院長 田中 真紀



2016年3月撮影 外来待合

当院の理念

地域住民の多様なニーズに応え、安全・安心で心の通う医療を提供する

方針

1. 利用者の尊厳を守り、地域での包括的な医療支援やサービスに努める
2. 地域に密着した公共性の高い医療を目指す
 - ① 地域医療機関との連携を強化する
 - ② 地域に特色のある医療を担う
3. 質の高い医療を提供するために資質の向上に努める



ジェイコー
JCHO 久留米総合病院

独立行政法人地域医療機能推進機構

部門紹介 リハビリテーションセンター



リハビリテーションセンターでは、病気やケガ、手術後、あるいは高齢により体力や運動機能が低下した方々それぞれの症状に応じて、運動器疾患、呼吸器疾患、脳血管疾患、心大血管疾患など様々なリハビリテーションを行っています。とくに「がんリハビリテーション」では患者さんが抱える疼痛や疲労、日常生活動作能力や筋力低下などの一般的な問題だけでなく、運動麻痺やリンパ浮腫、呼吸障害、摂食・嚥下障害、末梢神経炎、軟部組織や骨切除後など、がんの種類による特別な問題に対して二次的障害を予防し、運動機能・生活機能の低下予防・改善を目的にリハビリ診療を行っています。

理学療法では廃用症候群の予防や身体を動かすことによる治療、日常生活における基本動作の練習などを行います。また、発病（発症）直後や術後など安静を余儀なくされることで、筋力や体力などの身体活動面だけではなく、認知面・精神機能面も低下することがあります。そこで、二次的な精神面の合併症を予防・改善するために、作業療法もベッドサイドの段階から介入し、寝返り・起き上がりなどの起居動作が早期に出来るよう、患者さんが入院生活および退院後の在宅生活をより主体的に行えるよう、身近動作自立へと結びつく応用的な生活動作練習を行っています。

私たちスタッフは、より親しまれやすく利用しやすい環境で、みなさんにリハビリテーションを行っていただけるよう努めています。



リハビリテーション部 松尾 健一

水の祭典久留米まつり

「一万人のそろばん総踊り」



2016年8月4日(木)水の祭典久留米まつり「一万人のそろばん総踊り」に参加しました
時間の許す限りそろばん踊りの練習を行い、一生懸命覚えその成果を披露する日がついにきました。
19時からパレードスタートです。
この日は、パレードスタート前に雨が降っていたため強い

日差しはありませんでしたが、それでも蒸し暑い中、おそろいの法被を着て、一生懸命踊りました。
時には疲れた表情も見られましたが、笑顔で約2時間楽しく踊りきることができました。

参加した職員の皆さん、お疲れ様でした



第21回JCHO久留米老健納涼大会を終えて



平成 28 年 8 月 27 日に第 21 回 JCHO 久留米老健納涼大会を開催いたしました。

3 月に実行委員が組織され準備がスタートしました。利用者様とご家族様にいかに楽しんで頂くか、実行委員が中心となり話し合いを重ねてテーマや内容などを決定しました。今回は、4 月に熊本県の震災があり、人と人とのつながりの大切さをあらためて感じた年になりましたので、テーマを「つながろう」とし、ステージを見て頂くだけでなく、参加して楽しんで頂けるように企画しました。

当日は、筑水高校の野菜販売や焼き鳥などの模擬店も大変にぎわい、あっという間に完売しました。ステージでは筑水高校の勇壮な和太鼓演奏や、Sun Sun（託児所）の子供たちのかわいい歌と踊りを見せて頂きました。泣いている子や元気に踊っている子など様々でしたが、お父さんやお母さんのわが子を必死にカメラに収める姿がとても印象的でした。箱の中身当てゲームでは、利用者様とご家族様が協力して回答されましたが、珍回答の連続で大いに盛り上がりました。また、平岡介護福祉専門学校には手話コンサートと「よさこいソーラン節」を披露して頂きました。

最後には職員、ボランティア学生、利用者様総出の炭坑節で納涼大会を締めくくることができました。老健と病院の職員だけでなく実習に来られた学校にも協力を頂き、利用者様も大変楽しまれておられました。たくさんの方の協力により大成功のもと納涼大会を終えることができました。

この納涼大会が今後も継続して実施できるよう職員一同頑張っていきます。

納涼大会実行委員会 委員長 江頭 和洋

2016年度 市民公開講座



今年度、市民の皆さま・患者さまを対象とした市民公開講座を下記日程・テーマで実施いたします。
各講座を当院医師・薬剤師・保健師・看護師が担当します。
予約の必要はありません。皆さまのふるってのご参加をお待ちしております。



第1回: 7月3日(金)
「加齢と血圧上昇」
～元気で長生き、健康寿命を延ばそう!～
講師: 平井医師(当院循環器科)



第4回: 12月9日(金)
「寒い冬を乗り切ろう」
～インフルエンザを予防するには～
講師: 石橋保健師
(当院健康管理センター)



第2回: 8月12日(金)
「認知症ってなんだろう?」
～物忘れの違い、認知症のサイン
こゝなとどうする?～
講師: 当院認定看護師
(当院老人保健施設)



第5回: 2月10日(金)
「上手なお薬との
つきあい方」
講師: 当院薬剤師



第3回: 10月14日(金)
「乳がんを知ろう」
～乳がん検診を受けませんか～
講師: 当院乳腺外科医師

※講師の都合上、変更もありますのでご了承ください。

場所は当院2階講堂です
14時～15時を予定しています
参加は無料です

お問い合わせ

独立行政法人地域医療機能推進機構



久留米総合病院

健康管理センター

TEL 0942-33-1211



右写真は第3回「乳がんを知ろう」
講演の様様です。
講師は当院、乳腺外科山口先生です。

今年度の市民公開講座も残すところ
2回となりました。皆様のご参加
をお待ちしております。



次世代乳がん検診の夜明け

会長は田中眞紀・JCHO 久留米総合病院長



明治学国高校卒業 1980 久留米大学医学部卒業 同第一外科入局 1990 社会保険久留米第一病院(現・独立行政法人地域医療機能推進機構久留米総合病院)外科健診部長 2000 同外科部長 2011 久留米大学外科学客員教授 2012 久留米総合病院院長

乳がん検診に関する医療者が集う「第26回日本乳癌検診学会学術総会」が11月4日(金)・5日(土)、福岡県久留米市の久留米シティプラザで開かれる。会長は、地域医療機能推進機構久留米総合病院の田中眞紀院長。テーマ「次世代乳がん検診の夜明け」に込められた願いや概要を聞いた。

乳がんの患者数が急増しています。世界を見ても、女性のがんの中でもっとも多くなっています。その中で、日本の乳がん検診率は非常に低い。後進国と言っていると思います。

日本乳癌検診学会は、正しい検診の受け方や受診の重要性を市民に伝える啓発活動をする。同時に、検診に関わる職種が集まり、検診の中心を煮詰め、より精度の高いものにするための活動をしています。

検診は次世代へ 転機はJ-ST ART 2007年から2011年にかけて「乳がん検診における超音波検査の有効性を検証するためのランダム化比較試験(J-ST ART)」が実施されました。

40歳代の女性を二つのグループにランダムに振り分け、通常のマンモグラフィ検診をしたグループと、それに上乗せして超音波検査を実施したグループで、発見率や精密検査となった率を比較したのです。

その結果、超音波検査を追加することで、がんが見つかりやすくなる一方で、がんではないのに精密検査を受けるケースも増えることがわかりました。ですから、「現段階で言えるのは、超音波検査もしたほうが良さそう」ということです。

検診の一番の目的である「死亡率を減らす」に対する効果の検証には、あと30年ほどかかると思われる。超音波検査を導入することとメリットとデメリットを総合的に見極める必要があるでしょう。

ただ、J-ST ARTによっても、乳がん検診が次の時代へと進むことは間違いない。検診を、どのように進めていべきなのか、クリアすべき課題は何なのか。今学術総会では、それを明確にし、次世代の乳がん検診を考えていきたいと思います。

市民公開講座

11月5日(土) 本乳癌検診学会学術総会市民公開講座

11月5日(土) 本乳癌検診学会学術総会市民公開講座では、乳がん経験者山田邦子さんが講演

九州医事新報に掲載されました。

2016年(平成28年度)9月20日発行の

高濃度乳腺の人だけではない。HBOC(遺伝性乳がん・卵巣がん症候群、肥満など)ハイリスクの女性も、一般的な人と同じ年齢から、同じ頻度で検診を受けるべきです。

「個別化」の時代 乳がん患者が増えているのは、日本人の場合40代です。その年代の日本人女性には、乳腺の密度が高い「高濃度乳腺」の人が多くいます。

乳がん検診のガイドラインとして、40歳以上の女性には2年に1回「マンモグラフィ」による検診を受けることを勧められています。マンモグラフィで撮影した約3割の人は乳腺が真っ白に映って、がんが見えない。ですから、これからは、その人の乳房の性質によって、検診方法を異なる「個別化検診」の時代に入っていくかと思えます。



独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO) 久留米総合病院 福岡県久留米市橋原町2番地 0942-33-1211 (代表) http://kurume.jcho.go.jp/

乳がん研究は世界中で進み、医療機器も技術も進歩しています。その中で、「ゼロ期のものすごく早期のがんや前がん病変のような命に関わらない乳がんを見つけたらどうするか」という課題は、マンモグラフィ検診と比べると遅れていないかという議論も、世界にはあちこちで起っています。

超音波検査の精度管理の問題も検討します。この学会が、より良い乳がん検診、国民のために検診につながることを願っています。

さらに、良性腫瘍が見つかるといった経過観察をどうするかという課題も、マンモグラフィ検診と比べると遅れていないかという議論も、世界にはあちこちで起っています。

超音波検査の精度管理の問題も検討します。この学会が、より良い乳がん検診、国民のために検診につながることを願っています。



「がん」と向き合って生きる 240人参加 「医師の「生」の声聞けた」

乳がん患者の会「あけぼの会」九州大会

日本乳癌検診学会理事長を務める中村清吾、昭和大学乳癌外科教授、久留米総合病院(福岡県久留米市)の田中眞紀院長、九州がえり手乳癌科部長が講演。乳がん診療の現状や検診、医師と患者の情報共有などについて語った。

パネルディスカッションでは、講演した3人と光山昌珠、北九州市立医療センターの副院長、今までもあまり詳しく知らなかったことを少しも知ることができた良かった。世間で日本の比較、乳癌、浸潤の仕組みなど、また、普段聞けなかったことを、元気に話していただきました。

今までのいろいろなことを考え、改めて、医療が政治に繋がっていること、教育が良い社

「情報提供 あけぼの福岡」

参加者の声

「先生のお話がわかりやすく愛情のこもったお話しに元気が出ました。本当によい生活のために患者さん、医療職がともに頑張ろうという気持ちになりました。また、乳癌外科の先生方の現場、現状の話も初めて知り、先生方もお疲れないようにさせていただきます。」

「お医者さんの「生」の言葉をパネルディスカッションで聞くことができて、すごく熱意を持って仕事されていることが伝わってきました。」

「パネルディスカッションでは、医療制度に関する問題を中心に話が展開されました。普段ではこの様な話は聞かないのでとても参考になりました。患者の声がかかる、医療を変える、これを実感できるような活動をしていきたいです。」

「術後3年、ステージⅢB進行。浸潤で今日の講演会に参加できたことは夢のようです。ワクワクする、トキメク、ワクワク、元気に話していただきました。」

「今までのいろいろなことを考え、改めて、医療が政治に繋がっていること、教育が良い社

「乳癌再建全国キャラバン in 福岡」

手術体験者が伝える

NPO法人E.B.C. (エフ・ビー・シー) プレスト キンサンは、このほど、九州初めでの「乳癌再建全国キャラバン」を福岡県中津区で開き、女性124人が参加した。

中津区、久留米総合病院、再建に定評のある矢永博子、矢永クリニック院長が講演。

田中院長は、「乳がん手術の種類や方法について、動画や画像を示しながら具体的に説明し、乳がんがもたらぬと思われ、術後生活に乳癌再建手術が保険適用になって、以前に比べて全摘術を希望する患者の割合が増えてきた」とし、「再発を防ぐためにも、どんなに小さな乳がんであっても、浸潤の程度によっては切除することもある。しかし、患者の身体的、肉体的QOL向上のためには、乳癌をきれいに再建させることも医師としての重要な役割と語った。

矢永院長は、乳癌再建手術の種類や方法について、動画や画像を示しながら具体的に説明し、乳がんがもたらぬと思われ、術後生活に乳癌再建手術が保険適用になって、以前に比べて全摘術を希望する患者の割合が増えてきた」とし、「再発を防ぐためにも、どんなに小さな乳がんであっても、浸潤の程度によっては切除することもある。しかし、患者の身体的、肉体的QOL向上のためには、乳癌をきれいに再建させることも医師としての重要な役割と語った。

矢永院長は、乳癌再建手術の種類や方法について、動画や画像を示しながら具体的に説明し、乳がんがもたらぬと思われ、術後生活に乳癌再建手術が保険適用になって、以前に比べて全摘術を希望する患者の割合が増えてきた」とし、「再発を防ぐためにも、どんなに小さな乳がんであっても、浸潤の程度によっては切除することもある。しかし、患者の身体的、肉体的QOL向上のためには、乳癌をきれいに再建させることも医師としての重要な役割と語った。

「再建手術経験者の生の声を聞くことができてとてもよかった。などの感想が聞かれた。同法人は、2013年、真水美佳理事長が設立。自らも8年前に乳がんとなり、手術を切腹、乳房再建手術によって、胸を取り戻した経験から、乳癌再建手術に対する正しい情報の提供と乳がん患者のQOL向上を目的に活動を始めた。

全国の乳癌外科医、形成外科医、患者会などと連携し、地方都市に住む乳がん患者とその家族を対象に、乳癌手術、乳房再建手術の医師による講演や、手術経験者による経験談などを聞くことが出来るイベントを実施している。

新入職者紹介 (2016年10月1日付)

医師



外科医員 ^{なかやま ごういち} 中山 剛一

- ・日本外科学会専門医
- ・日本肝臓学会肝臓専門医
- ・日本がん治療認定機構
がん治療認定医
- ・麻酔科標榜医

地域の皆様のお役に立てるよう努めて参ります。
宜しくお願ひ致します。

医師



循環器内科医員 ^{さとう ひろみ} 佐藤 宏美

- ・久留米大学医学部内科学講座
心臓・血管内科部門 助教
- 平成 28 年 4 月より非常勤医師
として、10 月より常勤として

勤務しております。地域の皆様のお役にたてるよう細やかな診療に努めて参ります。どうぞよろしくお願ひいたします。

医師



腎臓内科医員 ^{みなみ あき} 南 麻希

- ・内科認定医

10 月から久留米総合病院勤務
となりました



コメディカル



理学療法士 ^{さとう としゆき} 佐藤 俊之

体調管理に努め、今までの経験を患者さんに還元できればと思います。

コメディカル



医療社会事業専門員 ^{はくの ひかる} 泊野 光

早く 1 人前になれるよう、日々一生懸命頑張りますのでよろしくお願ひ致します。

退職 (2016年9月30日付)

総合診療科医長	平井 良
外科医師	高橋 健二郎
腎臓内科医師	千葉 弘胤
看護師	近藤 恵

編集後記

平成 16 年 4 月 1 日より久留米大学第一内科医局から社会保険久留米第一病院に派遣となり、その後 12 年半この病院でお世話になりました。広報委員には 3 年ほど前から関わり、平成 28 年 4 月から 9 月まで広報委員長を務めさせていただきました。私が勤務した期間、病院は大きな変革の時期でした。社会保険庁解体、久留米第一病院の終幕、JCHO として新たな船出。その時にこの病院の一員として働けたこと、また広報委員として院内の出来事を近隣のみならずさまに発信できたことを大変光栄に思っています。平成 28 年 9 月 30 日を以って久留米大学病院と JCHO 久留米総合病院を退職し、地元筑後で実家の医院継承を行って参ります。今までありがとうございました。

医療法人 平井医院 院長 平井 良

■内科

【受付時間】 午前8:30~11:30 午後1:00~3:00

診療科	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
呼吸器内科	北里 裕彦		小田 華子		山田 和子	北里 裕彦 <small>(原簿外来のみ受診予約)</small>	北里 裕彦	北里 裕彦 <small>(専門外来のみ受診予約)</small>	北里 裕彦	
	小田 華子				末安 禎子				山田 和子	
腎臓内科			岩谷 龍治 南 浩	岩谷 龍治	南 麻希		南 浩			
内分泌代謝内科 <small>(糖尿病/甲状腺)</small>	徳洲 市朗	徳洲 市朗	徳洲 里恵			徳洲 市朗	徳洲 市朗 <small>(甲状腺)</small>		光井 暁子	徳洲 市朗
	松尾 裕子	松尾 裕子	松尾 裕子			松尾 裕子	松尾 裕子		松尾 裕子	松尾 裕子
消化器内科	松隈 則人		佐々木 望		松隈 則人	増田 裕	吉武 めぐみ		吉武 めぐみ	
循環器内科	平井 祐治		阪上 暁子		平井 祐治		平井 祐治		佐藤 宏美	

■外科

【受付時間】 午前8:30~11:00

一般消化器外科	村上 直孝		白水 和雄		白水 和雄		岐部 史郎		村上 直孝
	岐部 史郎		日野 東洋				中山 剛一		中山 剛一
乳腺外科	田中 真紀		大塚 弘子		田中 真紀 <small>(初診のみ)</small>				田中 真紀 <small>(予約のみ)</small>
	山口 美樹 <small>(初診のみ)</small>				山口 美樹				山口 美樹
									大塚 弘子 <small>(初診のみ)</small>
									※形成外科 <small>(毎月第4水曜日)</small>

■整形外科

【受付時間】 午前8:30~11:00

安藤 則行		安藤 則行		伊藤 弘雅		安藤 則行		安藤 則行
						副島 崇 <small>びざスポーツ専門</small>		

■産婦人科

【受付時間】 午前8:30~11:00

園田 豪之介		園田 豪之介		園田 豪之介		園田 豪之介		
稗田 太郎		稗田 太郎		稗田 太郎		稗田 太郎		
畑瀬 哲郎		畑瀬 哲郎		畑瀬 哲郎		久留米大学 非常勤医		

現在、分娩の取り扱いを休止しております。

■泌尿器科

【受付時間】 午前8:30~11:00

大西 怜		大西 怜		大西 怜		大西 怜		黒瀬 浩文
------	--	------	--	------	--	------	--	-------

水曜日：初めて受診される方も再来の方もすべて受付は10:30までとなります。(予約は除く)

■麻酔科/ペインクリニック内科

【受付時間】 午前8:30~11:30

杉山 和英		園田 真由		杉山 和英		杉山 和英 <small>(予約のみ)</small>		杉山 和英
園田 真由				園田 真由				西尾 薫理

■眼科

【受付時間】 午後1:00~3:00

				久留米大学 非常勤医				久留米大学 非常勤医
--	--	--	--	---------------	--	--	--	---------------

■皮膚科

【受付時間】 午後1:00~3:00

				久留米大学 非常勤医				
--	--	--	--	---------------	--	--	--	--

■放射線科

河野 れい	寺崎 洋	河野 れい	寺崎 洋	寺崎 洋	寺崎 洋	河野 れい	河野 れい	河野 れい	寺崎 洋
-------	------	-------	------	------	------	-------	-------	-------	------

他院からの紹介・検査依頼に基づいて画像診断を行いますので、患者様からの直接のお申込はできません。

■総合診療科

【受付時間】 午前8:30~11:30 午後1:00~3:00

佐々木 望	山田 和子	小田 華子	岩谷 龍治	末安 禎子	小田 華子	北里 裕彦	松隈 則人	山田 和子	南 麻希
佐藤 宏美									

午後は初めての方のみの受診となります。

■女性総合診療科(水曜午後) 【受付時間】 午前8:30~午後3:00 【診療時間】 午後1:30~4:00

						各診療科 女性医師			
--	--	--	--	--	--	--------------	--	--	--

※各診療科すべて、初めて受診される方も再来の方も事前のご予約が必要となります。

担当医 佐々木 望 (消化器内科) / 松尾 裕子 (糖尿病内科) / 小田 華子 (呼吸器内科) / 亀尾 順子 (内分泌内科) / 富田 裕子・上松 章子 (内科)

田中 真紀・山口 美樹・大塚 弘子・佐藤 郷子 (乳腺外科・外科) / 高尾 真美 (産婦人科) / 守屋 普久子 (泌尿器科)

※内科 富田医師は第1・第4水曜日のみ ※泌尿器科 第1水曜日は完全予約制ですので受診希望の方は事前のご予約が必要となります。

■精神科 (リエゾン科) ※当院を受診中の患者様を対象とした診療を予約制で行っています。毎週水曜日(午後) 担当医: 江口 寛

	月	火	水	木	金	土
腎センター 外科	枝國 節雄	枝國 節雄		枝國 節雄	枝國 節雄	
血液透析 CAPD	●	●	●	●	●	●

〒830-0013 福岡県久留米市櫛原町21番地 TEL: (0942) 33-1211 FAX: (0942) 32-0113

2016年11月1日改定



ジェイコー

JCHO 久留米総合病院

独立行政法人地域医療機能推進機構

Japan Community Healthcare Organization: JCHO

〒830-0013 福岡県久留米市櫛原町 21 番地

TEL: 0942-33-1211 FAX: 0942-32-0113 URL: <http://kurume.jcho.go.jp/>

2016年11月発行 発行責任者: 院長 田中 真紀 編集: 広報委員会